

3-4. 報告書作成変更

- ・ 3-1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。
- ・ 分析結果報告書メニューには、入力状態とチャート状態が表示されています。

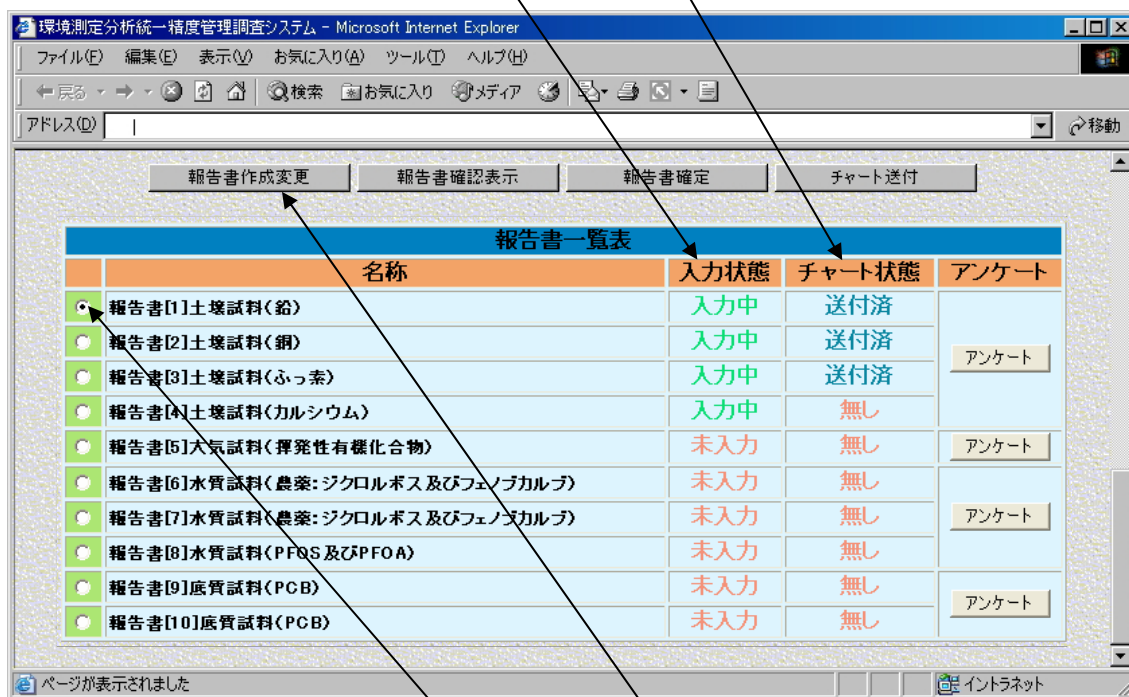


図 3-4.1 分析結果報告書メニュー画面 報告書一覧

入力状態について

- 「未入力」 : まだ入力が行われていない状態です。
- 「入力中」 : 入力が途中まで行われている状態（一時保存されている状態）です。
- 「確定」 : 入力が確定した状態（変更できない状態）です。

チャート状態について

- 「無し」 : チャート類のファイルが送付されていない状態です。
 - 「送付済」 : チャート類のファイルが送付されている状態です。
- チャートの送付については、「3-7. チャート類の送付と確認」を参照して下さい。

- ・ 分析結果報告書メニューから入力しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書作成変更」をクリックすると別画面にて「報告書作成変更画面」が表示されます。

環境測定分析統一精度管理調査システム - Microsoft Internet Explorer

一時保存 前ページ 次ページ 1 / 2 ダイレクトジャンプ

報告書1のページを一時保存しました。

分析結果報告書[1] 1/2

1. 1 土壌試料(鉛)

電話番号		
分析主担当者名		
分析主担当者の経験年数		年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)		

回数	分析結果(mg/kg) 注1)	検出下限値以上 注2)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目			
2回目			
3回目			

注1) 一旦受領した結果については、訂正があっても受け付けませんので、記入間違いや単位間違い等にご注意。
 注2) 検出下限値以上であった場合、分析結果を有効数字3桁で記入する。
 注3) 検出下限値未満であった場合、検出下限値を有効数字1桁で記入する。

1. 検液(1mol/L塩酸溶出液)の作成
 分析結果報告書[1~4](共通)(1.0 土壌試料(検液の作成))に記入する。

2. 検定の方法 (各項目の分析方法)

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	-未選択- その他()
使用した水	-未選択- その他()

<前処理>

検液の量	mL
準備操作(前処理)	-未選択- その他()
前処理後の溶液(定容量) 注4)	mL

注4) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

<溶媒抽出等>

準備操作(溶媒抽出等)	-未選択- その他()
前処理後の溶液の分取量 注4)	mL

(溶媒抽出)

溶媒の種類	-未選択- その他()
キレートの種類	-未選択- その他()
抽出回数	回
溶媒の使用量	mL/回
最終の定容量	mL
最終溶液(試験溶液)の液性	-未選択- その他()

注4) 定容とせず、全量で準備操作(溶媒抽出等)した場合には、記入しない。

図 3-4.2 分析結果報告書作成変更画面

・入力方法は、「2. 記入方法」に従って下さい。また、各分析結果報告書の共通事項を記します。

表 3-4.1 各分析結果報告書の共通事項

分析主担当者	全角入力。実際にその項目の分析を手がけた人の氏名（複数で分析を行った場合は主として実施した人の氏名とする。ただし、分析結果報告書〔9〕、〔10〕の底質試料（PCB）については、「前処理」、「GC/ECD 又はGC/MS操作」の操作ごとに手がけた人の氏名を記入する）。
分析主担当者の経験年数	数値（半角）入力。該当項目の記入時点での分析業務経験年数を整数（四捨五入による）で記入する（分析結果報告書〔9〕、〔10〕については、分析操作ごとに底質試料（PCB）の分析に携わった経験年数とする）。
分析主担当者の実績	数値（半角）入力。分析主担当者が昨年度1年間に分析を行った環境試料の該当項目のおよその試料数を記入する（分析結果報告書〔9〕、〔10〕については、分析操作ごとに底質試料（PCB）の分析に携わった試料数とする）。

・分析結果報告書〔1～4〕の「検液の作成について」は、分析結果報告書〔1～4〕共通になります。

分析結果報告書〔1～4〕（共通）として「1. 0 土壌試料（検液の作成）」に入力して下さい。入力項目の詳細は、「4-1 分析結果報告書〔1〕 表 4-1(2)検液の作成」を参照して下さい。

・各分析結果報告書の入力項目の詳細は、「4. 各報告書の詳細」を参照して下さい。

- ・操作ボタンについて

「一時保存」：現在入力中のページを一時保存します。

「前ページ」：前ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、前ページに移動します。

「次ページ」：次ページがある場合、現在入力中のページを一時保存し、次ページへ移動します。

「ダイレクトジャンプ」：現在入力中のページを一時保存し、指定したページ番号に移動します。

上記の操作を行うと、操作ボタンの下のメッセージエリアにアナウンスが表示されます。

- ・入力操作が終わりましたら、一時保存を行った後に、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックし入力画面を閉じます。



図 3-4.3 分析結果報告書作成変更画面 閉じる

- ・分析結果報告書メニュー画面の報告書一覧の入力状態が「入力中」と表示されます。

※ 入力の途中であったり、後で追加記入や修正を行う場合には、「一時保存」をすることができます。「一時保存」することによりデータベースに入力データが保存され、次回入力画面を開いた時には自動的にそのデータが読み込まれます。これにより、複数日にわたっての記入が可能です。「前ページ」「次ページ」「ダイレクトジャンプ」ボタンでページを移動するときには入力したデータが自動的に一時保存されますが、入力画面を閉じる際やコンピュータをシャットダウンする際などには自動的に一時保存はされません。また、入力画面を開いたまま、一時保存、前ページ、次ページ、ダイレクトジャンプ、ユーザ情報変更、パスワード変更など、サーバからデータを読み込むあるいは書き込む操作をせず 24 時間経過しますとサーバとの接続が切断され、自動的にログアウトされます。一時保存は入力中いつでも行えますので、ある程度データを入力なさった段階で、一時保存を行うようにして下さい。

※ 提出期限を過ぎると入力できなくなります。

※ 参加者専用ページへのログインは、とある 1 つの分析機関に対して複数人のログインが可能です。その際は一番最後に保存した人のデータが優先されて保存されますので注意して下さい。(例えば、〇〇〇機関に対して、3 台の PC で A さん、B さん、C さんの 3 人の方が同じ時間帯にログインして報告書の入力作業が行えます。A さん、B さん、C さんの順番で保存処理を行った場合は C さんの入力内容が優先されて保存されます。)

- ・ 3-1 でログインを行うと、分析結果報告書メニュー画面が表示されます。(図 3-4.1 参照して下さい。)
- ・ 分析結果報告書メニューから表示しようとする「分析結果報告書」を選択し、「報告書確認表示」をクリックすると別画面にて「報告書確認表示画面」が表示されます。

図 3-5.1 分析結果報告書確認表示画面

- ・操作ボタンについて
「前ページ」：前ページがある場合、前ページに移動します。
「次ページ」：次ページがある場合、次ページへ移動します。
「ダイレクトジャンプ」：指定したページ番号に移動します。

- ・各分析結果報告書の内容の確認が終了したら、ブラウザ右上の「×：閉じる」ボタンをクリックして、分析結果報告書メニューへ戻ります。

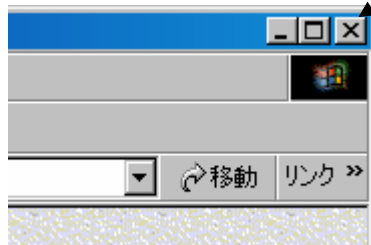


図 3-5.2 分析結果報告書確認表示画面 閉じる

- ・印刷について

各種分析結果報告書の印刷は、ブラウザの基本機能で実現されます。方法は、「**3-6. 報告書の印刷**」を参照して下さい。